

<第5回東日本大震災子ども支援意見交換会>

被災地での学齢期の子ども支援の構造

森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長）

1. 目的：日常的な支援をとおして子どもの生きる力の回復（心のケア、孤立化予防・早期発見）をめざす。学力向上の位置づけ。

2. 内容：学習（学力）と居場所のバランス

居場所の確保による学習支援という形をとりながら、地域・学校や家庭の状況によって、学力向上+生活支援の2つの目的のバランスのとり方が異なってくる。

学力向上

+

生活支援

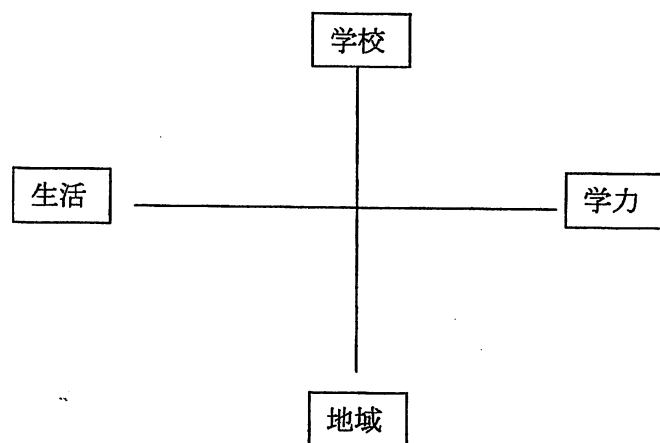
自習室

市民の人たちの集い(文化)

就労支援(家族)

孤立化予防(心の回復)

*sww(スクールソーシャルワーカー)の役割の検討



3. 方法：子どもの参加と主体性をどのように位置づけ、育てるか
成長発達の上にある子どもへの適切な大人社会からの援助

4. 方法：市民社会と行政/教育委員会の協働の形

国・県・基礎自治体の役割と調整による市民社会の分担→地域化をどのように進めるか

5. 子どもの人権侵害を防ぐ仕組みの整備：第1次相談場所としての役割を果たしうる研修と人権侵害を防ぐ施策（相談とオンブズ機能）が重要。